

飴すら知らない幼き日

村山 朝子

昭和 19 年に生まれたばかりの弟を抱き、私や妹を相手に父が拳を振ってよく歌ってくれたのは、軍歌だった。

勝ってくるぞと勇ましく
誓って国を出たからは
手柄立てずに死なりようか
進軍ラッパ聞くたびに
臉に浮かぶ旗の波

学校という集団に入る前は、戦争に結びつく記憶はあまりないが、食べ物のない時代であったから、お菓子などはなく、母は飴すらないことを嘆いてきれいな小石を見せて、飴とはこのようなもので甘いといった。私は密かに小石を洗って口に入れ試したが甘いはずもなく、すぐに捨てた。

元 N T T の建物のあたりは高い松がはえ、楓もあった。その下に防空壕があった。聞くとところによると、木の根があって掘るのに大変苦労したという。消防のサイレンが警戒警報を発令すると一斉に防空壕に飛び込んだが、母は、家で繕い物をしていて「死ぬときは死ぬのだから」と言って入らなかった。父も壕のそばの松や雑木のあいだから飛行機の飛ぶのを見たなどといっていた。そのころ私は、B 29*1 という言葉を覚えた。防空壕の中に非常食もあった。炒った大豆が一升瓶に入っていたと思う。四歳の妹がいないので探すと防空壕で眠っていたこともあった。

空知神社の遊具があるところ蛸壺というのだそうだが人一人入る穴をいくつも掘り、中に人が入って頭だけ出して棒もしくはそれらしき物をもって青年が演習していた。

昭和 20 年 4 月、泥濘を飛び飛び、母に連れられて美唄国民学校に入学した。赤いランドセルを買ってもらったが、厚紙のようなものだった。学校で初めて聞いた国語の教科書は

アカイ アカイ
アサヒ アサヒ *2

で始まった。また、体育館の正面の扉の中に御真影*3 があった。それとわかったのは後のことだが、先生を真似して恭しく最敬礼せねばならないのだが何かわからず、不思議に思えた。ほかにも煉瓦造りの奉安殿*4 が今の中央駐車場の隅で郷土史料館の脇と思うのだが、神社を背に南向きに建てられていて、その前は広い運動場だった。

担任の石井美代先生は、神主さんの娘でもあり、また、学校の玄関の脇が神社ということもあって、よく社に行ったが、神社に深々と全員おじぎしてから遊んだものだ。

入学して間もなく先生が各々の家の食べ物調査をした。並んで一人ひとりが先生の前で「豆の入ったおかゆです。」とか「大根の入ったおかゆです。」と答えるのを聞いて、私も前の人と同じよう物を食べていると嘘をついた。そのころ、私の家は、小さく四角に切った馬鈴薯

の買ったごはんを食べていた。みんなより良いものを食べているのを悪いことでもしているように思えてついた嘘は、私の心を暗くした。

石川県生まれの祖母は、薩摩芋より馬鈴者はずっと美味しいといって、お昼近くになるとせっせと馬鈴薯の皮をむいて南瓜と一緒に煮てくれて、ごはんがわりに食べた。

学校ではクラスに一枚か二枚の割り当てのゴム短靴を買う切符*5を私は先生からいただいた。そして買ってもらったのが艶もなく何の飾りもない靴だったが、うれしかった。藁靴も履いた。そして雪にぬれた靴をストーブのそばで干した。酒も煙草も切符だった。両親は、どちらも飲まないで人に譲っていた。米の通帳もあった。

体操の時間に呼び出されてすぐに家に帰るように言われ、襷を掛けて出征していく父を駅から見送った。父 39 歳の時であった。その後、父のゲートル*6があったが、その時捲いていたかどうか覚えていない。また、父ではないが、出征兵士がお守りにする千人針*7を祖母と母が誰かに頼まれて、やっていた。

出征せる父の帽子に残りゐる
汗もまじれる臭いを嗅ぎし

父が出征して 3 人の子供を抱えたモンペ姿の母は、長女の私にもオオバコは食べられることを教えて、社の周りで摘んだ。今もオオバコを見るとそのことを思い出す。摘んだ帰りに神様に 2 人で手を合わせて父の無事を祈った。

学校では兵隊さんの煙草にするとって、生徒総出で美唄川の縁でイタドリの葉を摘んだ。また、外の運動場の神社側に子どもが伏せる程の凹みが横長に掘られており、そこに指と耳と目と、口かは中は忘れたが、三か所押えて全員が伏せるのである。お尻を突き出しているとお尻をはたかれた。それは避難訓練らしかったが、子供心に上から丸見えなのになあと思った。

父のいなかったのは 1 か月程だったろう。食べるものに困った母は労災病院の向かいあたりに当時精米所をしていた母の叔父の瀬能さんに行って、唐黍を粉にしてもらい、母は唐黍だんごをつくったが、私達は食べなかったらしい。

旭川に入隊した父が帰ってきた。沖縄に転属するため、身体検査があったとか、腎臓肋膜の深い傷、入隊前に手術した盲腸の傷も新しかった父は、使いものにならぬと思われ、帰されたのであろう。昭和 20 年 6 月 23 日沖縄守備隊は、全滅したのであるから、父の病が父の命を救ったのであろう。唐黍だんごにもどるが、母が言うには、「父さん兵隊に行っていていくらひもじかったのだらう。子供達がいやがって食べない唐黍だんごを平らげたよ。」と驚いていた。

除隊した父は、「大きな声では言えないが、後 1 か月もしたら戦争は負ける。」と親類の人に話していた。私は、私の父が言ったので信じた。

母がどう工面したかはわからないが 1 キロ程の砂糖を父に送ったが入れ違いに父は帰ってきたので砂糖の箱が追いかけて戻ったが中は空だった。

父が帰って間もなくの夏の晴れた日、開けられた窓からいつもの見慣れた役場の吏員全員が直立し、首をうなだれている光景に異様なものを感じた。8 月 15 日の「終戦の詔書」放送を聞く姿を私は窓の下で見っていた。そして夜、電燈を覆っていた黒い布は取り除かれ、明るい夜はうれしかった。

敗戦間もなく女性吏員の S さんに連れられて美唄劇場（前田社長）で夜、映画を見ていると、朝鮮人が暴れ込んだと騒然となり、みんなが出口に殺到し、私は S さんに手を引かれて逃げたが、私には誰が暴れたのかわからなかった。

また、昼間役場に暴れ込んだ朝鮮人が屋根に上がり放尿もしているといい、父は外に出るなどと言った。家にある米を父は心配してふとんの下に並べ、そこに 1 歳の弟を寝かせ、私もそこにいたが、役場の小使室の窓からは明るい外が見えるだけだった。

着物を沢山もって嫁いできた母だったが、戦中も戦後も物資はなかなか手に入らなかった。母の着物は、次々と直され子供達の着る物に変わった。昭和 20 年の 12 月に生まれた妹にも母の襦袢は直され、赤い洋服ができあがった。その赤い服は、新鮮で可愛らしかった。

戦後上映されていた映画「鐘の鳴る丘」の主演は、佐田啓二であったと思う。主人公が愛情深く戦災孤児達を集め、立ち直らせようとする内容であった。孤児達の悲惨さに頷き泣いて母と見たが、その時の美唄劇場は、身動きもできない程人が入っていた。戦中に楽しみを奪われていた人々の文化に対する渴望の爆発が人々を映画館へといざなったのであろう。

一列談判破裂して
日露戦争始まった
サッサと逃げるは露西亜の兵
死んでも尽くすは日本の兵
五万の兵を引き連れて
六人残してみな殺し
七月八日の戦いに
・・・・・・・・・・
チョイと隠す

と、手毬をつきながら遊んだこともあった。

文章は前後するが、昭和 14 年元旦に生まれた私を包んだと母が言ったベビー毛布を、今も捨てがたく持っているが、白地にピンクでまさしく女の子のものと思うのだが、なんと絵は戦車なのである。

昭和 12 年、日中戦争*8、上海事変*9 を経て大東亜戦争*10 へと突入していくのに、あらゆる方法で庶民の心を駆り立て、煽るのにベビー毛布まで戦車であったことに驚かされる。

みどり児の吾を包みしベビー毛布
戦車の並ぶピンクの絵柄

戦争は終わっても生活はなかなか良くならなかった。それどころか、病のため 8 町歩の土地を人に預け、昭和 18 年に美唄に来た父は、昭和 22 年に実施された農地解放*11 によって、父自らが開いた新篠津の土地を失ったのである。何処にもぶつけようのない怒りと無念に泣いたのではなかろうか。そんな苦勞をして 5 人の子供を育ててくれた両親を今更のように懐かしく偲ぶのである。

北海道の不在地主の鎮魂に

建てしと知りぬ東明閣は

(むらやま あさこ 昭和 14 年生まれ)

- *1 B29** 第二次世界大戦末期に活躍したアメリカ、ボーイング社製の大型長距離爆撃機。1 万メートルの高度を最大時速 577.6 キロで飛んだ。日本本土空襲にはほとんどこの飛行機が使われ、広島、長崎への原爆投下にも使われた。
- *2 アカイ**… 昭和 16 年から国民学校で使われた第五期国語教科書。昭和 8 年から使われた「サイタ サイタ サクラガ サイタ」の第四期教科書よりもさらに皇国精神と忠君愛国を強調する教材でうめられた。「アサヒ読本」とも呼ばれる。
- *3 御真影** 天皇・皇后の写真。教育勅語発布前後から昭和 20 年の敗戦時まで、宮内庁から各学校に貸与された。
- *4 奉安殿** 下付された「教育勅語」の謄本と天皇・皇后の「御真影」とを最も丁重に奉置する場所。「少国民」（国民学校の児童たち）は、登下校の際には必ず、この奉安殿に最敬礼をさせられた。
- *5 切符** 衣料切符のこと。昭和 17 年から衣料品点数切符制が実施され、切符がないと衣料品が手に入らなくなり、各衣料品により、交換する切符の点数が決まっていた。
- *6 ゲートル** 厚地の木綿・麻・ラシャ革製で足首から膝まで巻いたり覆ったりした西洋式の脚絆。
- *7 千人針** 一枚の布に千人の女性が赤い糸でひと針ずつ縫って千個の縫い玉をつくり、出征兵士の武運と無事を祈願して贈ったもので、これを腹に巻いて出征する兵士には、敵弾も避けてとおるとされていた。
- *8 日中戦争** 昭和 12 年、盧溝橋事件をきっかけに戦争が開始された。
- *9 上海事変** 昭和 7 年に起こった日中軍の衝突。昭和 12 年の日華事変でも上海事変が起こった。
- *10 大東亜戦争** 昭和 16 年 12 月 10 日大本営政府連絡会議は、「真珠湾攻撃」が始まった戦争を、「大東亜共栄圏建設」を目的としているとして、「大東亜戦争」と呼ぶことに決定した。現在は、太平洋戦争と呼ぶことが多い。
- *11 農地解放** 農地改革。自作農創設を目的とする戦後民主主義化政策の一つ。昭和 20 年、農地調整法を改正して第一次農地改革を行ったが、不徹底だったので、翌年自作農創設特別措置法に基づいて第二次農地改革が実施された。この結果、80%以上の農民が自作又は自小作農になった。